

甲賀市 農業委員会だより

2014.7.15
第19号

甲賀市農業委員会
甲賀市水口町水口6053
TEL0748-65-0718

Q 「農こうか高野」とは？
A 当組合は甲賀町の西の玄関口に位置し、JR草津線、県道草津伊賀線が集落を南北に二分するように東西へ、



輝け未来 農事組合法人 こうか高野

こうか高野の
甲賀町高野

Q 現在の取り組みは？
A 全地権者67戸が組合員登録し、出資金800万円と営農組合の機械のすべてを引

更には新名神高速道路が通過する大変交通の華やかな地域です。平成3年に圃場整備の完成と共に転作を中心にした集落営農組合が発足、小麦の転作ローテーションによって67戸の全組合員が参画し、営農活動に取り組んできました。
しかし、国の農業施策の変化と農家の高齢化から、将来に向けた組織体の見直しを行い、平成18年に特定農業団体へ、更には平成22年に法人化し「農事組合法人 こうか高野」を設立しました。



Q 今後の取り組みは？
A 今後も組合当初の、高野の土地は高野で守るの心意気を組合員皆が忘れることなく、更には「お互いさん」の気持ちで大切に全員参加を心がけていきます。
平成25年からは新たな取り組みとして、女性を中心にした野菜・園芸グループを募り、「イチジク」「かぼちゃ」「玉葱」の栽培を始め、楽しく集団作業をしながら、収穫の喜びや野菜作りの大変さも共有し、仲間の絆を深めています。また、水稲・麦作の機械作業オペレーター班を通じた若い後継者の仲間づくりや、子どもの田植えから収穫までの体験圃場を設置し、自然

き継ぎ、集団転作小麦の栽培水稲機械作業の受託、農地利用集積による水稲の全面受託に取り組んでいます。また、小麦作の不適地圃場への飼料用米を疎植栽培しながら経費削減と収量確保に挑戦しています。
しかし、米(飼料用米を含む)と麦及び作業受託が主な売上であることから、国の農業施策による交付助成金がなくては経営体としての存続維持が厳しい現状です。



とふれあい、お米の大切さや食べ物への関心と農業を理解する心を育めるよう取り組んでいます。
将来的には高野一農場を目指し、集落内農地の一元管理ができる組織体に発展していくことを期待しています。
今年、法人設立5周年目にあたることから11月23日は、記念事業としての「収穫感謝祭」を集落あげてのイベントとして取り組み、住民、組合員の皆さんと共に自然の恵みに感謝し、地域のふれあいを深める機会にしたいと考えています。
(Y)

遊休農地対策

遊休農地の現状と課題

農業委員によるパトロール等の調査を実施した結果、平成25年12月末の市内の遊休農地は、約6,900筆、636haであり、平成24年度の調査の648haより若干減少しているものの大きな面積となっています。

甲賀市の農業は、平坦地域と中山間地域に分かれており、稲作を中心に展開されていますが、農業を取り巻く環境は大きく変化し、消費者ニーズの多様化、輸入農産物の拡大などにより農産物の価格は下落し、農業経営は厳しい状況となっています。

あわせて、従事者の高齢化、後継者不足、野生鳥獣による被害の増加や相続による農地の所有者の分散化などの要因により、遊休農地の大幅な減少は難しく、食料自給率の向上と市民の良好な生活環境の保全のため遊休農地の早期解消が課題となっています。



遊休農地の解消事例紹介

次に具体的な遊休農地の解消事例を紹介します。

○「JA農場」として遊休農地を再生

JAこうかでは、地域と連携し、地権者から農地を借り受け「JA農場」として再生されています。水口町虫生野地先の圃場では、担い手がこの農地を借り受け、玉葱を栽培されています。



○遊休農地を再生し、レンコン栽培

水口町水口地先では、農業委員がレンコン栽培を希望する方に農地を紹介し、葦の生い茂る約70aの農地が開墾され、レンコンが栽培されています。元々非農家の方ですが、地元産のレンコンを出荷したいと意欲的に取り組まれています。



○一般企業による遊休農地の再生

一般企業でも解除条件付きで農地を借り受けることができます。土山町頓宮地先では茶畑を再生し、栗や薬草の栽培が予定されています。



また、甲賀市農業再生協議会では、耕作放棄地対策部会により耕作放棄地の再生事業を実施しています。

耕作放棄地再生利用交付金事業
平成25年度実績
再生地区 7地区
再生面積 462a
交付金額 3,271,000円
耕作放棄地再生利用推進事業
自走式草刈機貸出

今後、解消事例を紹介していきますので、参考にしていただき、遊休農地の解消に努めていきましょう。

獣害対策

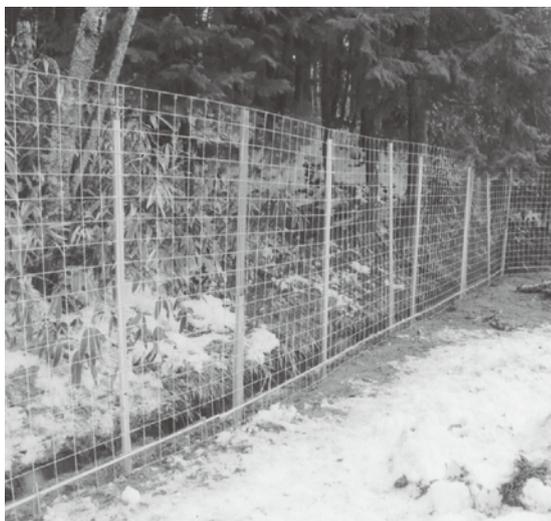
農政部会では、年度当初に業務計画を決定し、活動を行っていますが、獣害対策についても獣害に強い作物の検証や、甲賀地域獣害対策協議会に委員を派遣し、先進地研修等から獣害対策に関する情報を地域に発信しています。

甲賀市では、獣害対策を農業における重点施策と位置付け、鳥獣被害防止総合対策事業では、平成23年度から3年間に市内で設置された防護柵の総延長は約300kmとなりました。防護柵による防除効果は一定の成果が見られましたが、今後は、柵のメンテナンスが重要となってきます。昨年の台風

による防護柵の被害についても、各地域では復旧作業が行われています。集落環境の点検を行い、獣を寄せ付けないようにしましょう。



昨年の台風による被害直後



修理後

獣害に遭いにくい作物

農業委員会では、不耕作地解消事業の実証圃場で、獣害に強い作物の検証を行っています。圃場がある甲南町塩野地先では、シカ、イノシシが出没しますが、こんにゃくいもと山椒は被害に遭っていません。



こんにゃくいも



ワラビ

また、山菜のワラビも、シカの被害が少ないと言われています。

(T)



山椒

農地賃借料情報の提供

(平成 26 年 6 月 10 日、第35回総会において報告)

平成 25 年 1 月から 12 月までに締結(公告)された賃貸借における賃借料水準(10aあたり)は、以下のとおりとなっております。

この賃借料情報は、参考として提供していますので、貸し手・借り手の双方が、話し合っ決定してください。

1. 田(水稲)の部

締結(公告)された地域名		平均額	最高額	最低額	データ数	備考
甲賀市一円	大規模基盤整備地域	9,000円	9,000円	9,000円	88	
	基盤整備地域	5,600円	9,000円	2,000円	244	
	未整備地域	4,800円	7,210円	2,000円	160	
(参考)甲賀市平均		5,900円			492	
(参考)使用貸借権(無料)					489	

(参考)物納支給(件数)	米60kg	米30kg	合計
	18	42	60

2. 畑(普通畑)の部

締結(公告)された地域名		平均額	最高額	最低額	データ数	備考
甲賀市一円		5,000円	7,000円	3,000円	11	
(参考)使用貸借権(無料)					8	

3. 畑(茶畑)の部

締結(公告)された地域名		平均額	最高額	最低額	データ数	備考
甲賀市一円	土山町・水口町・甲賀町・甲南町全域	10,000円	10,000円	10,000円	3	
	信楽町 全域	14,100円	15,000円	12,000円	6	
(参考)甲賀市平均		12,700円			9	
(参考)使用貸借権(無料)					0	

※1 データ数は、集計に用いた筆数である。

※2 平均額は、算出結果を四捨五入し100円単位としている。

※3 「(参考)甲賀市平均」の平均は、各区分の平均値(四捨五入前)をデータ数により加重平均した値である。

行動する農業委員会

～農業委員会活動方針、業務計画の策定～

農業委員会では、4月の総会で平成26年4月から平成29年3月までの活動方針及び平成26年度の業務計画を決定し、活動していきます。

重点活動方針	平成26年度業務計画(具体的な内容)
① 行動する農業委員会の実践	農地相談、農地利用調整活動の実施、農業関連制度等の活動を推進
② 農政活動の推進	農業者の意向等の把握、関係機関への要望活動
③ 優良農地の確保と効率利用の推進	農地パトロールによる遊休農地の拡大防止、農地中間管理機構による担い手への農地集積や集約化を推進
④ 多様な農業経営の育成支援	人・農地プランの作成・見直しへの支援、新規就農者への支援
⑤ 農業者年金制度等の加入推進	農業者年金制度の加入や家族経営協定の締結の推進
⑥ 農業情報の提供	農業委員会だよりや市のホームページの充実
⑦ 農業施策に対する建議、要望	農業施策に対する建議・要望活動、農業施策の検証
⑧ 食育と地産地消	学校給食への地場産食材の利用拡大等による地産地消の推進、食の安心・安全の確保
⑨ 関係機関等との連携強化	農業関係機関等との連携を強化
⑩ 農地情報の整備充実	地図情報の整備による農用地の適正化、農家台帳システムの活用による基礎資料の精度の向上

詳細につきましては、甲賀市のホームページに掲載しております。

アクセス方法/甲賀市ホームページのトップページ → 事業者の方へ → 農林 → 甲賀市農業委員会

農地中間管理機構の活用には「人・農地プラン」の策定・見直しが大事です

平成26年度から「農林水産業・地域の活力創造プラン」と称して、4つの改革すなわち、①農地中間管理機構の創設、②経営所得安定対策の見直し、③水田フル活用とコメ政策の見直し、④日本型直接支払制度の創設が打ち出されたところがあります。②③④は、内容が少し変わりますが、いずれも従来の旧戸別所得補償制度や水田フル活用政策、中山間地直接交付制度、世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策の継続であり、新規と言えぬのが、農地集積のための「農地中間管理機構」であります。

滋賀県では、「公益財団法人 滋賀県農林漁業担い手育成基金」が管理機構として指定され、7月1日から農地中間管理事業を行うこととなります。(一部は、市町へ委託予定)

機構は、農家から直接農地を借りて、一定規模の面積にまとめて地域の担い手に貸し出すこととなりますが、借りた農地と借りる人(受け手)を組み合わせる「農地利用配分計画案」は市・農業委員会・JAが連携して策定することになります。

農地集積には、農地法や農業経営基盤強化促進法がありますが、中間管理機構を通じての集積が、出し手協力金等の助成金の対象となりました。また、受け手は地域の担い手(認定農業

者、集落営農、新規就農等の新規参入者)となりますが、その運用にあたっては、「人・農地プラン」が農地政策の基礎であることから重要視されますので、機構の活用や農地の集積の成否は、「人・農地プラン」の策定と定期的な見直しの推進にかかっているといえます。(T)

良食味米生産のコツはこまめな水管理です

米の食味に関しては、関係機関等によりコンクールや品評会が開催されています。農業委員



藪 芳治氏

の中でも、こまめな水管理により、近江米振興協会主催の平成25年度近江米「秋の詩」食味コンクールでは藪芳治委員(甲賀町滝)が最優秀賞を受賞され、JAこうか特別栽培米生産部会の平成25年産米の品評会では谷口治寛委員(信楽町宮町)が



谷口 治寛氏

最優秀賞を受賞されました。(M)

伊賀市農業委員会と3回目の交流会を開催

今回で3回目となる甲賀・伊賀の両市の農業委員会役員による交流会が平成26年6月6日に甲賀市で開催されました。



(農)黄瀬営農組合の食育畑の視察

当日は、水口町虫生野地先のJA農場から新規就農者へ貸し出された圃場での玉葱の生育状況を視察し、その後、信楽町黄瀬の(農)黄瀬営農組合を訪れ、農業委員でもある同組合代表の福山和育氏より説明を受けながら施設見学を行い、引き続き意見交換会を行いました。

今年も農業委員の改選年でもあり、また、国では農業委員会のあり方についての議論がなされていることもあり、両市の農業委員会活動についての活発な意見交換が行われました。(M)

農業って素晴らしい



新規就農者紹介

東京で9年間、プロのミュージシャンとして活動されていましたが、3年前に信楽に帰郷され、農業をされていた父を手伝っているうちに農業に魅力を感じて就農されました。

安全で安心なこだわり野菜の栽培のために、三重県の有機無農薬栽培をされている法人で1年間勉強され、現在では、ハウスと露地でトマト、ほうれん草、ピーマン、ナス、キュウリ、じゃがいも、にんにく、玉葱、白ネギなど多品種を栽培されています。当初は販路で苦労されたようですが、仲間や妻の静香さんの支えもあり、今ではJAをはじめ、大阪など都市部へも出荷されています。また、取引先の飲食店の中でお客さんに直接野菜を買ってもらえるインショップも予定をされています。

農場は、子どもたちも遊べるような場所にしたいという思いで「虹色スマイル農場」と名付けられました。

信楽は高地で農作物の味が良いので、信楽を高原野菜の産地にしたいという夢を実現するために、その足掛かりになれるような取り組みをしていきたいと話されていました。(T)



木村 裕則さん、静香さん
(信楽町神山の農場で)

全国農業新聞



- 発行日 毎週金曜日
- 購読料 1ヶ月 600円
- 申込
農業委員会事務局
または地区農業委員へ

第67回関西茶業振興大会

今年は「第67回関西茶業振興大会」が甲賀市で開催されます。品評会が8月にJAこうかで行われ、10月に甲賀市あいの土山文化ホールで表彰が行われる予定です。市内茶農家の上位入賞が期待されます。



国が支える。安心が大きくなる

担い手 積立年金 【契約】

農業者年金

安心で豊かな老後のため、**農業者年金に加入しましょう!!**

農業者年金加入条件

農業者年金は、次の要件を満たす方はどなたでも加入できます。

- 60歳未満の方
- 年間60日以上農業に従事
(配偶者・後継者も可)
- 国民年金第1号被保険者

お問い合わせは…

甲賀市農業委員会事務局 TEL 65-0718
JAこうか営農振興課 TEL 62-0720

今年7月には農業委員の改選があり、平成23年からの広報編集委員での発行は最後となります。この3年間では、紙面を4ページから6ページに増やし、農地部会は遊休農地対策、農政部会は獣害対策としてシリーズ化しました。

国の政策転換やTPPなどの影響で農業を取り巻く環境が益々厳しさを増す中、取材に依りてくださったたくさんの農業者の方々におかれましては、農業委員会だよりの紙面の充実にご協力いただき、ありがとうございました。

今後も、農業者の皆様には有益となる情報を発信していきたいと考えています。(N)

編集後記